

ノース・ダコタ州：小麦作柄と気象状況

2002年9月10日

2002年9月8日現在

9月8日現在の春小麦の収穫状況はSE地区では99%、ECで100%、SCにて98%、SWにて93%と州南部で最終段階にあるが、州全体では69%（昨年：96%、平年85%）と遅れている。NC地区では23%、NWちくでは43%の完了であり、収穫の遅れは小麦の品質劣化（低容積重、発芽粒、病害粒等の発生）に繋がる。デュラム小麦の収穫も平年より大幅に遅れている。この週の平均農作業可能数は5.0日であった。

8月1日付けUSDAの春小麦（デュラム小麦を除く）収穫予想では、単位収量は29.0bu/ac（7月1日：31.0、昨年：34.0bu/ac）と7月1日の予想より悪くなった。収穫予想面積6,800,000エーカー（昨年：6,900千エーカー）、収穫量：197,200千ブッシェル（昨年：234,600千Bu）となっている。デュラム小麦の8月1日予想は、単収25.0bu/ac（昨年：26.0bu/ac）、収穫量予想は48,750千ブッシェル（昨年：54,600千Bu）である。

土壌水分：

Topsoil

	Very short	Short	Adequate	Surplus
This week (%)	14	27	54	5
Last week (%)	13	26	54	7
Last year (%)	17	37	45	1
5-yr. Ave. (%)	11	27	55	7

Subsoil

	Very short	Short	Adequate	Surplus
This week (%)	16	30	51	3
Last week (%)	14	29	52	5
Last year (%)	11	27	59	3
5-yr. Ave. (%)	9	25	59	7

小麦生育状況：

	This week	Last week	Last year	5-yr. Ave.
Spring wheat Combined (%)	69	60	96	85
Durum wheat Combined (%)	42	27	80	63

Source: North Dakota Agricultural Statistics Service

州南部で収穫された硬質春小麦の品質は、高蛋白低容積重と言う土壌水分不足で生産された小麦の特色を示している。このような小麦は灰分が高い。又、単位終了は平年を下回っている。南西地区や南中央地区の一部では収穫が放棄された圃場もある。